

4 ブドウ「紅瑞宝」における着果量、結果枝の長さとお実品質

ねらいと成果

本県の主力品種はマスカット・ベリーAであるが、消費者嗜好の変化に対応して、主として直売向けに大粒系ブドウ品種の導入が進んでいる。しかし、これらの中には栽培特性が不明であったり、あるいは過大な着果負担や房作りで品質低下を招いている事例もみられる。そこで、当センターは大粒系品種における高品質生産のための適正な着果方法等の解明を進めている。

その結果、赤色品種の紅瑞宝の品質面からみた適正収量は1.5 t程度で、500 gの房を目標とした着房数は主枝1 m当たり6果房であった。また、樹勢が中庸な結果枝に着果した果房の品質が優れた。

内容

(1)着房数とお実品質

所内の9～10年生紅瑞宝(短梢せん定、主枝長16 m)を用い、ジベレリンによる無核化処理を行った。試験区として、主枝長1 m当たりの着房数を4、6および8果房とし、それぞれ6月下旬に摘房した。

2003年は着色～成熟期の降雨が平年と比べて多く、気温がやや低かった。各試験区とも520～530 g程度の房で、4果房区(収量1.0 t)は他の区と比較して果粒がやや小さかったが、果皮色はやや優れた。また、糖度は8果房区(収量2.1 t)が4および6果房区(同1.6 t)より低く、その他の品質に明らかな差はなかった。

2004年は果実生育期の気温が高く推移し、7月の降水量が少なかった。果房重は前年と比較していずれの区も小さかったが、4果房区(収量1.0 t)は6、8果房区(同1.2 t、1.5 t)と比べて大きかった。果粒は4果房区がやや大きかったが、果皮色や糖度、酸含量などには試験区間で明らかな傾向はみられなかった。

以上、収量が2 tになると糖度の低下がみられ、1.5 t以下では大差がなかったことから、紅瑞宝の適正収量は1.5 t程度と考えられ、500 gの房を目標とした場合の着房数は、主枝1 m当たり6果房が適当である。

(2)結果枝の長さとお実品質

所内の19年生紅瑞宝(短梢せん定、主枝長16 m)を用い、ジベレリンによる無核化処理を行った。開花期の結果枝長によって弱勢枝(120 cm以下)、中勢枝(120～160 cm)および強勢枝(160 cm以上)に区分した。

果房重は弱勢枝がやや小さく(データ省略)、果粒重は枝が弱いほど小さかった(図)。また、果皮色や糖度は強勢枝が弱、中勢枝と比較してやや劣った。

以上のように、果粒重と果皮色、糖度から紅瑞宝では開花期の枝長が120～160 cmになるような樹勢を目標に管理し、このような枝に着房させることが品質向上に有効である。

今後の方針

他の推奨品種についても、高品質果実生産のための栽培管理法について検討する。

水田泰徳(農業技セ・園芸部)

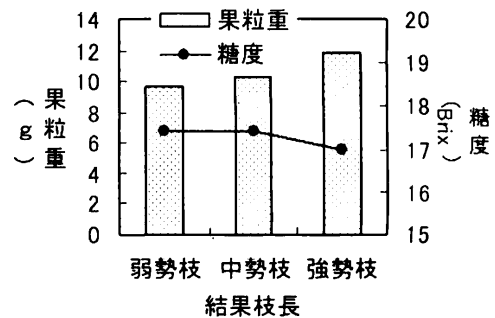


図 紅瑞宝の結果枝長と顆粒重、糖度

表 紅瑞宝の着果量とお実品質

年次	試験区	収量(t/10a)	果房重(g)	果粒重(g)	果皮色(カラーチャート値)	糖度(Brix)	酸含量(%)
2003年	4果房	1.0	532	11.5	1.9	18.5	0.50
	6果房	1.6	520	12.1	1.5	18.3	0.54
	8果房	2.1	517	12.4	1.4	17.8	0.52
2004年	4果房	1	443	12.4	0.4	20.1	0.48
	6果房	1.2	397	11.1	0.3	19.7	0.53
	8果房	1.5	374	11.1	0.3	20.2	0.47

注)果皮色のカラーチャート値は大きいほど色が濃いことを示す。